

# 平成23年度の常用自家発電設備の設置状況

内発協はこのほど、平成23年度の「常用自家発電設備に関する設置状況」をとりまとめました。今回の集計では、ディーゼル機関、ガス機関、ガスタービンを原動機とする自家発電設備で常時自ら使用するものを対象としました。電力会社等の電気事業用や卸供給事業用及び特定規模電気事業用等のように事業として他の者へ電気を供給または販売することを目的とした発電設備や非常専用の発電設備並びに家庭用発電設備は対象外としました。

## 台数・容量ともに4割増

平成23年度の常用自家発電設備の設置台数は、606台（22年度418台）で、前年度に比べて、45.0%増加。施設件数も、566施設（同401施設）で41.1%増加しました。設備容量についても、85,232.5kW（同58,684.2kW）と45.2%増加しました。

常用自家発電設備の設置台数と施設件数は、15年度から伸び悩み、16年度から減少傾向となり、18年度、19年度と大幅に減少しましたが、22年度で減少が止まり、23年度は大幅な増加に転じました。設備容量については、17年度以降、減少傾向が続いていましたが、23年度は設置台数と同様に、大幅な増加に転じました。昨年の東日本大震災に伴う停電やその後の電力供給不足の長期化により、停電対策として、各企業・施設において常用電源を確保する認識が高まったことが台数・容量ともに増加した要因と思われる。

## 出カクラス別

10kW未満（小出力）のガス機関は、250台（22年度251台）と昨年度ほぼ同数の結果でした。平成17年度までは増加傾向を示しましたが、18年度に減少に転じてから、21年度に下げ止まり、22年度から再び増加に転じました。小容量の10kW以上100kW未満のクラスは262台（同117台）と大幅に増加、大容量の500kW以上1000kW未満のクラスが45台（同10台）と大幅に増加したのも23年度の特徴です。

## メーカー別

常用自家発電設備のメーカー別では、ヤンマーエネルギーシステムが設置台数の約80%を占めました。

同社の23年度の設置台数は484台と、前年度に比べて、37.1%増加、設備容量についても15,539.5kWと50.9%増加しました。

## 原動機別

ディーゼル機関を搭載した常用発電設備は、23年度は設置台数が29台で22年度比12台の増加（22年度は21年度比5台増）となりました。設備容量でも22,065.0kWで189.6%の増加となりました。ガス機関を搭載した常用発電設備は、設置台数が572台で22年度に対して144.4%増となりました。設備容量については55,562.5kW、217.2%増と大幅に増加しました。ガスタービンを搭載した常用発電設備は、設置台数が5台で前年度と同数、設備容量は7605.0kWで77.3%減と大幅に減少しました。

## 都道府県別

関東地区（東京、神奈川、埼玉、千葉）の場合、設置台数の対前年度比は、いずれの都県も11.7～300.0%増加となりました。関西地区（大阪、京都、兵庫、奈良）での設置台数の対前年度比は、兵庫（16.7%減）を除き、14.9～225.0%と増加しました。中部地区（愛知、静岡、三重）での設置台数の対前年度比は、愛知（27.6%減）、静岡（33.3%増）、三重（28.6%減）となりました。

## 施設種類別

工場等については、23年度は58施設（前年度比87.1%増）で84台（同154.5%増）となりました。店舗等については、23年度は152施設（同2.0%増）で153台（同2.68%増）となり、設備容量でも50.8%増となりました。病院等については、84施設（同162.5%増）、85台（同129.7%増）。設備容量でも12.0%増となりました。福祉施設は、79施設（同60施設）、79台（同61台）。設備容量でも80.6%増となりました。

## コージェネの割合

ディーゼル、ガス及びガスタービンの各機関とも、ほとんどがコージェネ化を図られています。